毎月10日発行　第696号（通巻1200号）　定価１部40円

創立1880年 YMCA

東京YMCA

2012 6 月号

発行所　公益財団法人東京ＹＭＣＡ　発行人　廣田光司
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562　URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命

東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

天皇皇后両陛下ご訪問

芝浦アイランドこども園・児童高齢者交流プラザ

6月11日（月）、芝浦アイランドこども園及び児童高齢者交流プラザに、天皇皇后両陛下が訪問されました。両陛下は毎年、こどもの日・敬老の日・障害者週間の前後に、福祉施設を訪問され、関係者を激励されています。今回は、こどもの日にちなむ施設訪問でした。

こども園では2歳児クラスの保育をご覧になりました。あじさいの貼り絵を一緒にされ、ままごとやブロックなどで自由遊びをしている園児と接して下さいました。園児が差し出した〝お茶〟を陛下が飲むしぐさをされたり、美智子様が腕で作られた〝トンネル〟を園児が何度も通りぬけるなど、終始優しく接しておられました。

交流プラザでは、毎月実施している乳児と高齢者の合同誕生会をご覧になりました。ここでは〝ハッピーバースデー〟を一緒に唄われ、紙芝居や、高齢者から手作りのプレゼントを乳幼児に渡す様子などをにこやかにご覧になり、参加者全員に「おめでとう」と声をかけて下さいました。美智子様に握手を求める乳児に対して、優しく応えられる場面もありました。また、職員一人ひとりに対しては、「かわいい子どもたちを、よろしくお願いします」と、心のこもった言葉をかけて下さいました。館長と園長による施設のご案内や活動の説明、両陛下へのお茶の提供や来館者の確認・整理など、両施設の全スタッフが一丸となっての対応となりました。

82分間の「行幸啓」を受けて、厚生労働副大臣、東京都福祉保健局長、港区長及び区議会議長が両陛下を出迎えました。加えて、宮内庁と各機関の随伴者・同行者、報道機関と警備など、１００人を越える訪問でした。

（芝浦アイランド館長　鶴　清忠）

第10回 『ユニークダンス』を表彰

会員大会

5月19日（土）に「第10回会員大会」が東陽町センターで開催され、１１４人の会員、ユースボランティア、職員が参加した。第１部は東條めぐみ氏の司会により礼拝をもって開始した。廣田光司総主事から昨年度の東京ＹＭＣＡの事業報告がされ、笈川光郎会員部運営委員長からは会員活動の報告と今年度計画について説明された。また今年から「永年会員」制度が新しく設置され、30万円の会費を一度納めることにより、生涯にわたってＹＭＣＡの会員となることとなった。また、会員の層を拡大することを願って、会則の一部が変更された（▼４面「お知らせ」）。

続いて会員部運営委員候補者として新任7人を含む21名の運営委員が推挙された（左表）。2011年度のボランティア・オブ・ザ・イヤーには「ＹＭＣＡユニークダンス実行委員会」が選ばれ、その長年にわたる活動が表彰され、また各コミュニティーセンターで活躍した5人のユースリーダーに対して、笈川委員長から表彰状が授与された。勤続25年職員4人にも表彰状が贈られた他、太田太氏（＝下表）が名誉会員に推挙された。

続く第2部では、東京ＹＭＣＡの東日本大震災復興支援活動について、会員部の村上祐介より全般報告があったほか、4月からＹＭＣＡ石巻支援センターに常駐派遣された伊藤剛士から近況が報告された。またワークキャンプで活躍したユースボランティアからも感想が述べられ、今後も会員の力を結集して震災復興活動に取り組んでいくことが確認された。

第3部は佐野守氏の司会で進められ、軽食を楽しみながら懇親の時間を持ち、席上、退任された会員部運営委員6名に感謝が表された。恒例のチャリティーオークションのほか、東日本大震災復興支援のための販売ブースも設けられ、石巻のバッジ他、寄贈品が販売された。また「The Friends」によるバンド演奏では、アメリカンフォークから日本の歌まで、心に響く音楽に参加者の心が一つになった。このバンドは、西東京センターの会員が所属している縁で出演くださった。最後に「ＹＭＣＡの歌」を合唱し、震災復興タスク長の小原武夫氏による震災復興に向けたアピールと挨拶をもって閉会となった。

（会員部　戸坂昇子）

2012年度会員部運営委員

◆新任　7名

酢屋　善元　　辰馬　行男
長澤　弘　　中村　周三
藤江喜美子　　三代川春一
吉田　紘子

◆再任　14名

笈川　光郎（委員長）
石井　秀夫　　小原　武夫
金丸　満雄　　上谷　喜謙
菰渕　光彦　　佐藤　茂美
鈴木　雅博　　高橋　伸
東條めぐみ　　布上征一郎
張替　滋夫　　長谷川あや子
村杉　克己

（◆退任　6名）

伊藤　幾夫　　越智　京子
柿沼　敬喜　　佐野　守
高嶋美知子　　蒔田　敏雄

〝The Friends〟によるバンド演奏（写真上）。会員のつながりから出演が実現した。

表彰されたユースボランティアたち（写真右。下枠に紹介）

2012年度　東京ＹＭＣＡ名誉会員

太田　太さん

1982年から維持会員となり、13年間にわたり立川センター運営委員として奉仕された。その後も広報委員、国際委員、西東京センター委員を務め、音訳ボランティア『シジュウカラ』では草創期から指導いただいた（＝2面参照）。初代ＹＭサービス㈱社長、学校法人東京ＹＭＣＡ学院評議員も努められている。

Youth Volunteer of the year

竹内　英雄さん（西東京センター）

４年間、キャンプ、スキー、障がい児・者のキャンプ、定例野外活動など西東京センターのすべての活動で活躍。震災復興支援ワークキャンプにも参加。

高橋　佳衣さん（南センター）

幼児対象の定例野外活動のリーダーとして活躍。トレーニングや長期キャンプにも積極的に参加。

北原　遥香さん（山手センター）

主に発達障がいの子どもたちの活動と、震災支援のリフレッシュキャンプに積極的に関わる。大学のボランティアセンターとの窓口役となるなど、多岐にわたって活躍。

山下　麻美さん（江東センター）

長年にわたり、幼児体操クラスの看板リーダーとして活躍。幼稚園のキャンプなど数多くのプログラムにかかわり、保護者からの信頼も厚く期待されている。

大竹恵理香さん（東陽町センター）

東京ＹＭＣＡ社会体育・保育専門学校体育科２年生。実習で自閉症児・者の水泳クラスに入ったことをきっかけに、数多くのプログラムに関わる。

石巻からも特別参加 会員芸術祭　２年ぶり

「第15回会員芸術祭」が、５月13日から19日、東陽町センターにて開催された。昨年は東日本大震災の影響により中止としたため、２年ぶりの実施となった。水彩画、油絵他、様々な技法をこらした絵画作品、写真、鎌倉彫や陶芸などの工芸作品、手芸品など、60点が出展され、一つ一つの作品の輝きが会場を彩った。江東センター創作教室の子どもたちによる、のびのびした感性にあふれた共同作品「ロボット」「ぞう」、また「オープンスペースliby」の子どもたちの、エネルギーに満ちた写真やフィンガーペイントも、見る者を惹きつけた。

オープニングセレモニーには40人が参加。希望した出展者には菅谷功氏（新塊樹社会員）が丁寧な講評をくださった。会期中の受付ボランティアには在京各ワイズメンズクラブの協力があった。また不登校や障がいを持った子どもたちの作品出展のために複数の方からご寄付が寄せられた。

石巻ワークキャンプで訪問した野田恵一さんにも特別参加いただいた。野田さんは震災前に描いた『少年』の絵（↑写真）を、被災した自宅店舗に飾り、地元の方々を励ました。

今回の会員芸術祭では、石巻における東京ＹＭＣＡの震災復興支援活動でご縁のある野田恵一さんに、油絵２点を特別にご出展いただいた（＝写真）。いずれも震災前に石巻漁港ののどかな生活を描いた大作。野田さんは震災後、被災したご自分の商店にこの絵を飾り、地元の方々を励ました。そしてその絵に描かれた少年と3年ぶりに再会し無事を喜び合ったことが毎日新聞に掲載され多くの人々の感動を呼んだ。野田さんは13日の会員芸術祭オープニングに来訪し、震災時の様子やその後の生活、現在の思いについてお話くださった。表現としての芸術はどんな状況においても生きる力になるものであることを覚え、参加者一同、被災された方々に思いを寄せた。

（会員部　戸坂昇子）

赤▽三角

ニューヨークでの任期を終え５年ぶりに日本に帰国した。現地ではアメリカ在住の、日本の子どもたちのキャンプを担当した。ニューヨーク周辺は約８万人の日本人・日系人が暮らすアメリカで最大の日本人コミュニティーである。日本から来たばかりの子、アメリカで生まれた子など、育った環境は様々だ▼「国際人」と言うは易しいが、複数の言語、文化の中で戸惑いを覚えつつ生きている子ども多い。英語が話せるだけでは国際人にはなれない。彼らのアイデンティティーを大切に育て、複数の言語、文化の中に育ったことがよいことであると自信を持たせることが何より大事である▼日本に帰国後、インターナショナルスクールに配属となった。ここもまた様々な国、文化を持つ子どもたちが英語で教育を受けている。日本もまた、日本人だけが生きる国ではないと日々感じている。アメリカではほとんど日本語を話していたが、帰国後、職場の公用語は英語となった▼子どもたちの母国語はそれぞれ異なるが、日本で生活する間、日本のよさを学びつつ、国際社会で生きる上でのアイデンティティーをしっかりと身に着けてもらいたい。東京という、国際化が進むコミュニティーにあって、ＹＭＣＡに与えられた使命は大きい。「世界を見つめ、世界に生きる」ことが求められつつあると感じている。

（ＴＹｉＳ　松本数実）

ＹＭＣＡの会員活動　福祉・交流・教養など多彩

東京ＹＭＣＡの各コミュニティーセンターでは、会員・関係者のアイデアやネットワークを活かし、地域福祉、交流、教養プログラムなど、多岐にわたって活動しています。（▼３面に一覧あり）。今年の会員大会でボランティア・オブ・ザ・イヤーを受賞した「ＹＭＣＡユニークダンス・パーティ」と、名誉会員になった太田太さんが中心となって始めた、音訳ボランティア「シジュウカラ」をご紹介します。

障がいを持つ人と共に楽しむ

東京むかでワイズメンズクラブ協働

ユニークダンス・パーティ

初めての方には踊り方の基本レッスンがあるので、誰でも参加できる。うまく踊れても思ったように踊れなくても、笑顔が耐えない。

東京むかでワイズメンズクラブ
ユニークダンス・パーティ実行委員会　櫻井　浩行

東京むかでワイズメンズクラブはＹＭＣＡの基本理念により、青少年育成のための野外活動（野尻学荘）支援を目的に１９６１年５月10日に設立されました。また地域社会への奉仕活動として１９８３年３月15日に、「共に生きる」をテーマに「第１回ユニークダンス・パーティ」が開催され、毎年、春（４月）と秋（10月）の年２回「ユニークダンス・パーティ」を開催。今年の４月15日に「第57回ユニークダンス・パーティ」を開催して通算29年になります。「ユニークダンス」とは手や足または視力などが不自由な人たち（障がい者）がそれぞれ工夫した踊り方で健常者と共に楽しむソーシャルダンスです。車椅子でも、松葉杖でも簡単に踊れるユニークなダンスです。「ユニークダンス」のコンセプトは（１）障がい者と健常者が共に生きる。（２）障がい者に何かをするのではない。（３）それぞれの障がいは個性である。（４）共にダンスを楽しみながら、交わりを深めよう。以上の概念でパーティのホストを務めています。

←神田美土代町の会館前で

１９８３年春の「第１回むかでユニークダンス・パーティ」より１９９３年秋の「第20回むかでユニークダンス・パーティ」は東京むかでワイズメンズクラブが主催。１９９４年４月17日の第21回より「ＹＭＣＡユニークダンス・パーティ」と改名し東京ＹＭＣＡと東京むかでワイズメンズクラブとの共催となりました。また２００５年10月30日「第44回ＹＭＣＡユニークダンス・パーティ」より江東区社会福祉協議会の後援を受け現在にまで至っています。

会場は、神田美土代町ＹＭＣＡ本館より、ＹＭＣＡ東陽町センター、ティアラこうとう、森下文化センター、ＹＭＣＡ東陽町センターとＹＭＣＡの会場と、ＹＭＣＡのＰＲを兼ねて地域への会場と回りましたが、やはり本拠地へ戻ってきました。

今年、会員大会にて「2011年度Volunteer of the year」に選ばれました。永年の活動が認められ、報われたことに、まさに「継続は宝なり」との思いです。

音訳ボランティア「シジュウカラ」

目の不自由な方の〝目〟になって

音訳の指導者であり名誉会員になった太田太さん（中央）と西東京コミュニティーセンターのみなさん

西東京コミュニティーセンター主任主事　井口　真

音訳ボランティアは、目の不自由な方のために、文字や文章を音声化するボランティアです。２００６年度会員部の新規プログラム開発委員会の答申から誕生しました。会員部運営委員だった田中博之さんが、音訳ボランティアなら、忙しい人たちも家でできると提案されたのです。

西東京コミュニティーセンターは、その提案を受けて、勉強会を始めました。音訳には読み方を教える講師が必要であり、パソコンで録音したものを編集する技術者（構成者）も必要です。その指導を引き受けてくださったのが、今年名誉会員になられた西東京センター会員の太田太さんでした（＝１面参照）。太田さんは、盲人伝道協議会のテープライブラリーを永年指導した経験を活かして、勉強会を立ち上げてくださいました。

他団体の話を聴いたり見学したりと、勉強会を重ね、２０１０年には安定した活動をはじめることができるようになり、八王子盲学校の図書室に最初の作品「読書の時間に読む本１年生」を納品しました。昨年度は「３６５日のベッドタイムストーリー」をはじめとするＣＤ約30枚分（＝写真）を完成したほか、久我山青光学園との繋がりもできました。また、メンバー全員が東京ＹＭＣＡの会員として登録するようになったことも大きなことでした。今年度からは、点字で教科書を読むことが出来ない子どものための音訳を、ネット上のクラウドサービスを使って挑戦しようとしています。

当初は、勉強会だけ体験すると来なくなってしまう人も多く、メンバーが定着し始めたのは２００９年度のことでした。この、試行錯誤の２年間を乗り越えられたのも、太田さんによるところが大きかったと思います。昨年「シジュウカラメンバー名簿」を作成しましたが、そこに太田さんはこう書いておられます。

「常に喜べ、絶えず祈れ、全てのことに感謝せよ。これ、私が与えられたこの世でのモットー。しかし全く難しい。言い訳はたくさんできるけれど、出来ません。一生持参していくつもりです」。そんな太田さんの人柄に、シジュウカラのメンバーはついていったのだと思うし、これからもその思いを受け継いでいくのだと思います。

すべての人を一つにしてください

畏れを知り　謙虚に

彼らはまた言った、「さあ、町と塔とを建てて、その頂を天に届かせよう。そしてわれわれは名を上げて、全地のおもてに散るのを免れよう」。（旧約聖書　創世記11章４節）

日本中が「金環日食」で沸いた日に、東京大学の宇宙研究機構の村山斉（ひとし）さんから宇宙の話を聞きました。なんと宇宙を作っている物質の96％はまだ正体がわからない（暗黒エネルギー・物質）とのことでした。何でも研究して、すべてがわかっているように思う私達人間ですが、実はわからないことのほうが多いのです。謙虚さと「畏れ」を知ることが大事です。思い上がって世間の注目を集めています。素晴らしい建築物で高い建築技術の集大成と言えましょう。人々が集まり景気の上昇にも一役買うでしょう。しかし、世界に散っていった愚かで驕れる人間の姿が描かれています。高い塔の建設にあたっては一人ひとりの人間（奴隷）の命より「レンガ」が大切に扱われたのです。先日の埼玉で起こった違法な廃液事件、関越道でのバス事故、原発事故などが象徴している世界です。「人間の命の尊さ」より「高い塔をつくり神様に挑戦する傲慢・限りない欲望」が上位に位置したときに人は散らされて行くのです。

はいけないと思いました。自然や宇宙には実際のところまだまだ未知の部分が多く、私たち人間は無力な存在なのです。

スカイツリーの完成が崩され言葉を乱されて、私には、聖書に出てくるあのバベルの塔を思い起こさせるのです。聖書には、高い塔を作り神に近づこうとして、やがては崩されて言葉を乱されて、

（総主事　廣田光司）

石巻通信 vol.2

女川町で「遊び場」プログラム

「遊び場」に来た子どもたち

↑女川町の中心部の様子

石巻市の東隣に位置する人口約1万人の女川町では、津波の最高到達地点が標高20メートルだったと言われています。町の中心部はリアス式海岸の奥地に位置するため、狭まって高くなった津波が町を飲み込み、建物は一つ残らず流されてしまいました。宮城県発表によれば、震災による死者・行方不明者は827人にのぼり、これは震災前の人口の8.2%にも当たります。

ＹＭＣＡ石巻支援センターでは、4月より継続して女川町での子どもプログラムを行なっています。町内最大の仮設住宅団地がある総合運動公園に遊び道具を用意して伺い、ボランティアと一緒に遊んでもらう「遊び場」を提供しています。これまでに4月29日、4月30日、5月27日、6月24日に行いました。

6月10日のＮＨＫニュースで、この女川町の子どもを取り巻く調査を紹介していました。東北学院大学が町内小学4年生から中学生全員を対象に1週間の学校以外での運動量を調べたところ、１週間で１時間にも満たない子どもが33.8%に上ることが分かりました。全国平均は18.5%であることから、この数字はこの地域の子どもが極端に運動不足に陥っていることを示しています。復旧工事のため、旧市街地は大型車両の交通量が多く危険であり、子ども達の遊び場が無くなってしまったことや、仮設住宅に入ってバス通学になったため、歩いての登下校や放課後の活動が無くなってしまったことが大きいと考えられています。

ＹＭＣＡの遊び場プログラムは、子ども達に失われがちな外遊びを提供し、そして仮設での過酷な暮らしからリフレッシュしてもらうという、地元のニーズに即したものです。女川町は石巻市に比べ人口は7分の1以下という小さい町で、ボランティアの活動も 今はあまり見られない のが現状です。元気な子どもが家庭を明るくし、やがて地域に希望をもたらしていくことを信じて、ＹＭＣＡは今後も継続して地域とともに歩んでいきたいと思います。

（ＹＭＣＡ石巻支援センター　伊藤剛士）

『谷川真理駅伝』
学生が運営サポート

5月20日（日）に荒川戸田橋陸上競技場で開催された、地雷廃絶チャリティーマラソン大会『第8回 谷川真理駅伝～地雷ではなく花をください～』に、今年も東京ＹＭＣＡ社会体育・保育専門学校スポーツトレーナー科学生が、運営スタッフとして大会をサポートしました。この大会は地雷廃絶を呼びかけて始まったチャリティー駅伝で、1人が5ｋｍを走り、1チーム4人でタスキを繋ぐ20ｋｍのレースです。今年は15チーム6280人が参加、ボランティアも含めると約8000人が集う大会でした。社会体育専門課程の学生は、本部、受付、給水、走路誘導、中継など様々な場面で活躍しました。

パーソナルトレーニングゼミの学生は、ランナーとして3チーム参加しました。また、東京ＹＭＣＡが行っている、障がいをもつ子どもたちの体操教室「東京ＹＭＣＡフィットランニングクラブ」からも2チーム参加。このクラブは年間をとおして、本校学生が体育指導にあたっており、当日は学生が伴走者として一人ひとりについて走りました。今年はメンバーのお父さんもランナーとして参加されました。

益金は「難民を助ける会」に寄付されました。大会サブタイトルに「地雷ではなく花をください」とありますが、会場の荒川河川敷はシロツメクサの花が咲き乱れ、天候にも恵まれ、全員が最後まで完走し笑顔いっぱいの日でした。

（社会体育・保育専門学校教諭　半谷謙寿）

社会体育・保育専門学校学生たちは、受付・給水・走路誘導・中継・伴走者などとして大会の運営をサポートしました。

江東コミュニティー
親睦会に750人

5月19日、江東コミュニティーセンターにて「江東親睦会」が行われました。これは江東コミュニティーセンターに関わる全ての人々（江東幼稚園園児・保護者・リーダー・ワイズメンズクラブ等）の交流を目的として毎年開催しているイベントです。今年も多くの方々のご協力により、焼きそばや焼き鳥、おでんなど様々な模擬店を開き、また子どもたち向けには輪投げやヨーヨー釣りなどができるゲームコーナーを設けました。途中には江東コミュニティーセンターのリーダー・オブ・ザ・イヤーの表彰や社会人となったリーダーたちにワイズメンズクラブから記念品の贈呈をする感謝式が行われました。また、小学生のグループ活動「ピノキオ」と幼児のグループ活動「エルマー」の子どもたちはキャンプソングを披露しました。合計750人の参加者となった今年度の親睦会は子どもから大人まで、広い年代の皆さんが集うことができる素敵な会となりました。

（江東センター　西嶋健太）

同盟主事認定
東京から2人

日本ＹＭＣＡ同盟が全国ＹＭＣＡのスタッフの中から新たに7人を主事に認定、6月17日に御殿場・東山荘で授与式を行った。東京からは、星住秀一氏、村上祐介氏の2人が認定された。認定者を代表して、村上主事が認定論文「国内ＹＭＣＡにおけるファンドレイジング戦略～日米ＹＭＣＡファンドレイジングの比較と東京ＹＭＣＡの寄付戦略から～」を紹介すると共に、主事として献身する決意を述べた。（写真）

同盟表彰
東京ＹＭＣＡの会員48人が受賞

日本ＹＭＣＡ同盟が6月17日、2012年度の永年勤続、継続会員を表彰、また青少年奉仕賞、特別功労賞を授賞し、参加した会員7人に感謝を表明した。

東京ＹＭＣＡでは太田太、勝山健一郎、丹羽芳雄、及川栄子の各氏に青少年奉仕賞が贈られた。また25年勤続者賞9人、50年継続会員10人、25年継続会員25人が表彰された。当日会場に出席されなかった方には、7月27日に東陽町センターで伝達式を行う。

東京フロストバレーＹ
新ロッジ完成　人材育成のため

サマーキャンプシーズンのスタートに合わせ「リーダーシップロッジ」（写真）が完成した。40名収容のこのロッジは、昨夏のハリケーン「アイリーン」によって破壊された「ピジョンロッジ」を補う目的で建設され、その資金調達に際してはＯＢ、ＯＧが大きな力となってくださっている。機関誌「Frost Valley Life」で総主事ジェリー・ハンコスキーは、この一年間フロストバレーのスタッフやボランティアの方々が、ハリケーンからの復興に素晴らしい働きをし、ポジティブな機会として活かしてきたことにふれている。これまでにフロストバレーが育んできたコミュニティーの力とリーダーシップが、具現化されたのである。

この新しいロッジはフロストバレーの数々の建物の中でも特に環境に配慮され、今後ソーラーパネルを設置する準備もある。そして名称のとおりサマーキャンプでは次代のリーダーを育む最前線、CIT（Counselor in Training）で使用することが決まっている。ハリケーン直後の計画では複数の小規模ロッジを建設し、各棟の資金調達はいくつかの部署が分担するという構想もあった。たしかに経済的な側面だけを見れば、小規模ロッジを資金に合わせて建設する方がリスクを防げたことだろう。しかし、未来への明確なビジョンとともに復興を果たした姿は素晴らしい。

日本にもそのようなモデルはある。たとえば終戦直後の野尻学荘もＯＢが大きな力となって復興を果たした。当時は十分な指導者を確保できておらず、当然キャンパーを受け入れられる状態ではなかったが、これからの時代こそ人を育てることが大切と考え、リーダートレーニングをおこなったと記されている。

ＹＭＣＡが育んできた長い歴史と幅広いコミュニティーは、何よりの財産であり宝だ。フロストバレーがハリケーン復興のロールモデルを示すことができたように、常により良い未来にむけて邁進する姿勢によって、社会の良いモデルであり続けたいものである。

（在フロストバレー　三浦壮一郎）

主な会員活動一覧

★会員に限らず、どなたでもご参加いただけます。
★この他の活動もあります。詳しくは、各センターもしくは会員部（tel.03-3615-5568）までお問い合わせください。

【定例活動】

■**歌の広場**　地域の高齢者と童謡や唱歌を歌い、交流の輪を広げます。
＊山手センター「わくわくサロン」＊毎月第3火（健康体操もあり）
＊南センター「ＹＭＣＡすずらん会」　＊毎月第4金
＊町田ＹＭＣＡ「歌声ひろば」　＊毎月第2土
＊東陽町センター「Ｙわい歌の広場」　＊毎月第2木

■**ＹＩＶ（Yamate International Volunteer）**　＊山手センター＊毎週（水）
ボランティアによる日本語教室。さまざまな国籍の方が学んでいます。

■**ユーモアスピーチ世田谷**　＊南センター　＊毎月第2木
日常の出来事をユーモアを交えて語る交流活動。“笑って楽しい3分間”

■**音訳ボランティア**　＊西東京センター　＊月2回第1･3木
目の不自由な人のために、文字や文章を音声化します。（＝2面参照）

■**ベテランティア**　＊町田ＹＭＣＡ　＊毎月第2月
人生のベテラン（シニア）の方々を対象にしたボランティア講習会です

■**わくわく科学実験教室**　＊町田ＹＭＣＡ　＊毎月第3土
ボランティアによる、小学生を対象にした身近で楽しい科学実験教室。

■**妙正寺フィットネスクラブ**　＊杉並センター　＊週1回(木)
60歳以上の方を対象とした健康体操教室。40年以上継続している。

■**ひだまり体操クラブ**　＊杉並センター　＊週1回(水)
50～80歳代の方々が集う、健康体操教室。杉並区の集会場で実施。

■**ＷＨＯ（ワーキングホリデーオギクボ）**　＊杉並センター　＊月1回
都内近郊を散策する。一般参加者も多く、150回以上継続している。

■**午餐会**　＊賛助会事務局　＊月1回
1920年代から行われている歴史ある会です。昼食を共にしながら、文化、社会、経済、教育など多様な分野の第一線の方に卓話をいただきます。

■**中国語の聖書に親しむ会**　＊会員部　＊毎月第2月
仲田達男氏（元理事長）の指導により中国語と日本語の聖書を学びます。

■**旧約聖書に親しもう（キリスト教相互理解セミナー）**＊会員部　＊毎月第2木
秋山昇牧師の指導により、旧約聖書を輪読しながら勉強します。

■**早天祈祷会**　＊会員部　＊毎月1日(原則)
70年近く継続している祈祷会です。どなたでもご参加いただけます。

【イベント型の活動】　＊2012年度日程

◆**チャリティーゴルフ**　＊4月12日(木)
益金は障がい児支援・不登校児支援などに用いられます

◆**神田川船の会**　＊5月12日、10月6日
東京グリーンワイズメンズクラブとの協働。神田川を船でご案内し、歴史や風情を楽しみます。30年以上開催。東京都「環境賞」など受賞。

◆**会員芸術祭**　＊5月13～19日
会員や関係者の作品（絵画・写真・工芸品など）を展示します。（＝1面参）

◆**会員大会**　（＝1面参照）　＊5月19日(土)
一年間の活動報告や各種表彰、委員の推挙、会員の交流を行います。

◆**江東親睦会**　＊5月19日(土)
江東センターに関係するすべての人が集まり、模擬店など行う。(＝左参照)

◆**夏まつり**　＊8月25日(土)
模擬店、被災地物品販売、子どもの遊びコーナー、抽選会などを行います。

◆**国際協力一斉街頭募金**　＊9月8日（土）
会員、園児、学生など300人ほどが渋谷駅周辺で、募金を呼びかけます。

◆**インターナショナルチャリティーラン**　＊9月22日（土･祝）
障がい児支援のための駅伝大会で、多数の企業やグループが参加します。

◆**会員ソフトボール大会**　＊10月8日（月･祝）
東京近郊ＹＭＣＡの会員が集まり、ソフトボールによる交流をします。

◆**ユニークダンス**　（＝2面参照）　＊4月、10月
むかでワイズメンズクラブ協働。障がい者と社交ダンスを楽しみます。

◆**世界ＹＭＣＡ・ＹＷＣＡ合同祈祷会**　＊11月
世界中のＹＭＣＡ・ＹＷＣＡが一つのテーマに心を合わせて祈ります。

◆**会員協議会（ソシアスフォーラム）**　＊11月17日（土）
会員と職員が集い、ＹＭＣＡの使命や会員活動について考え協議します。

◆**江戸城ファミリーウォーク**　＊11月23日（金・祝）
東京ワイズメンズクラブ協働。江戸城に関する講演を聴き、散策します。

◆**バザー・オープンハウス（各センターで開催）**　＊秋・冬

◆**クリスマス祝会　（各センターで開催）**　＊12月

◆**教育シンポジウム**　＊（日程未定）
第一線で活躍する講師を招き、子育てのアドバイスをいただきます。

◇**災害支援活動**
東日本大震災復興支援のため、募金や被災地物産販売、現地でのワークキャンプ、歌の広場、子どもの遊び場活動などを行っています。